

広島を訪ねて

平和のための
小中学生広島派遣団文集



—平成27年度—

(2015年度)

城 陽 市



市の木 梅

昭和47年（1972年）10月24日市制施行を記念し制定。
南部丘陵地に広がる青谷の梅林では、春になると一面に漂うかぐわしい香りが、わたしたちの心をなごませてくれます。



市の花 花しょうぶ

昭和57年（1982年）11月7日市制施行10周年を記念し制定。
豊かな地下水に恵まれ、古くから栽培されている“花しょうぶ”は京阪神随一の生産高を誇り、多くの人びとに親しまれています。



市の鳥 しらさぎ

平成19年（2007年）11月7日市制施行35周年を記念し制定。
『しらさぎ』は、城陽市全域で見ることができ、本市の歴史や文化に非常に関わりの深い鳥です。また、『しらさぎ』の存在は、環境保全や自然と人との共生を実現するシンボルとなり、その白く優雅に舞う姿は、活き生きと未来に羽ばたいていく城陽市をイメージさせます。

城陽市歌

明るくのびのびと

作詞 龍村 孟雄
作曲 中原 都男

1. うめかあーる やまべにのべに ちやの
みどりほのか にも ゆーる もろ ひとのここ
ろーのすみか うつくしきわれらのまち
よ ひかりあれ ひかりあれ ひかり あ
れ じょうよう うつくしまち

2. 松あおき 鴻の巣山に
鳥啼きて 明るき陽ざし
こだまする 榎のひびきに
ひらけゆく われらのまちよ
栄あれ 栄あれ 栄あれ
城陽 ひらけゆくまち

3. 砂しろき 木津の流れに
黄金なす 稲穂のみのり
山の幸 野の幸さわに
ゆたかなる われらのまちよ
恵あれ 恵あれ 恵あれ
城陽 ゆたかなるまち

昭和34年（1959年）2月15日制定

（昭和47年（1972年）5月3日市制施行に伴い、
町歌を市歌とした）



城陽市章

城の文字と太陽のイメージを合わせたマーク。

町制施行4周年を機に制定されました。

昭和30年（1955年）4月26日制定

〔昭和47年（1972年）5月3日市制施行に
に伴い町章を市章とした。〕

城陽市民憲章

かぐわしい梅の香りと清らかな水のわがふるさとを
愛し、先人の遺した文化を育み、平和でかがやかしい
城陽の未来を創造するために
わたくしたち城陽市民は

- 一、自然を生かし 美しい緑を育てましょう
- 一、教養を深め 豊かな文化をつくりましょう
- 一、心身を鍛え 働く喜びを大切にしましょう
- 一、隣人を愛し ふれあいの輪を広げましょう
- 一、秩序を守り やすらぎのまちを築きましょう

昭和57年（1982年）11月7日制定
（市制施行10周年を記念し制定）

城陽市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、核兵器の廃絶と軍備の縮小は、全人類ひとしく希求しているところである。

わが国は、唯一の被爆国として、非核三原則の堅持はもとより、再び戦争による惨禍を繰り返してはならない。

国際平和年にあたり、わが城陽市は、憲法に基づいて自由と平和を愛し、思想・信条を越えて、永遠の平和都市であることをここに宣言する。

昭和61年（1986年）12月23日宣言



城陽市役所庁舎 南玄関前

平成 27 年 7 月 23 日 (木)

城陽市役所集合

出発 (小学生 6 年生 23 名・中学生 13 名 合計 36 名)



昼食

資料館地下展示場・
情報資料室見学



平和記念資料館見学



被爆者講話（新宅勝文氏）



旅館 到着



入浴

夕食等

ミーティング



（各自持ち寄った折鶴を束ねてメッセージを書きました）

消 灯

平成 27 年 7 月 24 日 (金)

旅館出発



広島平和記念公園到着
原爆死没者慰霊碑



広島二中原爆慰霊碑・爆心地



原爆ドーム



原爆の子の像



(みんなで持ち寄った折鶴を捧げました)

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館



広島風お好み焼き体験 (昼食)



広島市出発

城陽市役所帰着

解散

目次

二度とおかしてはいけないこと	青谷小学校	6年	松井優空	1
戦争のおそろしさを知って	青谷小学校	6年	池田朝美	2
原爆の恐ろしさ	青谷小学校	6年	川嶋悠夏	3
広島での学び	青谷小学校	6年	木下瞳月	4
原爆のおそろしさ	青谷小学校	6年	島本綾音	5
広島派遣団に参加して	青谷小学校	6年	飛川華子	6
広島派遣団に参加して	青谷小学校	6年	曾束昂祐	7
二度と戦争はおこってはいけない：	久世小学校	6年	長谷川由奈	8
繰り返してはいけない過ち	久世小学校	6年	前野夏穂	9
戦後七十年の広島へ	寺田小学校	6年	寺矢拓斗	10
命の大切さ	寺田西小学校	6年	山元夢羽	11
ふれて初めて分かる事	寺田南小学校	6年	高田真優	12
広島派遣団に参加して	富野小学校	6年	為房杏奈	13
広島派遣団に参加して	富野小学校	6年	内田華音	14
広島派遣団に参加して	富野小学校	6年	野中優姫	15
広島に行つて学んだこと	深谷小学校	6年	橙初音	16
原爆でうばうもの	古川小学校	6年	栗山琉璃華	17
広島に行つて	古川小学校	6年	松本璃月	18
広島に行つて	古川小学校	6年	上屋美結	19

広島派遣団に参加して

古川小学校 6年 赤治佳穂 20

原爆は人の一生をかえる

古川小学校 6年 木村光輝 21

広島へ行って学んだこと

古川小学校 6年 西本麗生 22

初めて広島を訪れて

古川小学校 6年 日渡詩乃 23

戦争と原爆のおそろしさ

京都教育大学附属桃山中学校 1年 平野雄大 24

広島での体験

東城陽中学校 1年 中井陽音 25

広島を訪ねて

東城陽中学校 1年 澤田直寿 26

広島派遣団に参加して

東城陽中学校 1年 今村莉風 27

命の大切さ

南城陽中学校 1年 森川琴未 28

広島派遣団に参加して

南城陽中学校 1年 増田愛果 29

広島に行つて…

南城陽中学校 1年 有村咲姫 30

広島に行つて思ったこと

南城陽中学校 1年 谷村浩人 31

広島派遣団に参加して

北城陽中学校 2年 藏貫郁大 32

戦争について考える大切さ

南城陽中学校 2年 川端優花 33

広島に行つて

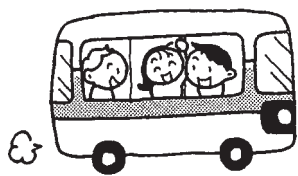
南城陽中学校 2年 川津真優 34

平和について

南城陽中学校 2年 阪口優羽 35

戦争のその後を知つて

奈良教育大学附属中学校 3年 松井海陸 36



二度とおかしてはいけないこと



青谷小学校 6年

松井 優空

ぼくは、広島にあって、楽しい生活をおくろうと思いましたが。なぜなら、子どもなのに戦争で早くにお亡くなりになってしまった方は、まだ知らないことや、楽しい思いをあまりしたことがないと思ったからです。

ぼくが楽しい生活をする、早くにお亡くなりになった人やまだ生きてかかった人などにも、幸せをわけることができ、早く亡くなった人も喜ぶと思うからです。ほかに、ぼくは、一日一日を大切にしていき、戦争で生きたいと思って戦った人達の気持ちを裏切るみたいな変な気持ちになって、まだ生きたいと思っても、戦争で早くに死んでしまった人が、いっぱいいるので、一日一日をみんなの何か役に立てるような一日一日にして、最期まで、みんなの役に立ちたいと思いました。だから、ぼくは、最期までみんなの役に立ちたいなと思いました。

ぼくは、原爆資料館に行って、ひふがとけている模型を見て、とても戦争はおこなってはならないことなんだなと思いました。ぼくは、あの原爆が落ちた、8月6日のことが、地獄だなと思いました。みんな水をくれ水をくれと言って、途中で、みんな川に入り、そのまま流されて死ぬなんて、とても残酷だなと思いました。ぼくが、もしあの場所にいたら、

ぜったいに逃げていると思います。みんな水をくれと言って、ぼくは、なにかもがこわくなって、壊れてしまうと思います。死んだ人がいっぱい道に倒れていて、本当にこわかっただろうなと思います。ぼくは、いま、あまり残酷でこわい体験はしていないけど、戦争では、死体がいっぱい倒れていて、しかも知っている人もいて、ぼくは、絶望すると思います。

ぼくは、いま生きていることがとても重要で、一つ一つの命の重要さがわかりました。この広島で学んだことをいかに、生きてゆけたらいいなと思いました。



戦争のおそろしさを知って



青谷小学校 6年

池田朝美

私は、バスに乗っているときは、「広島はこわい所なんだよなあ」とずっと不安でした。でも、広島に着いたとき、「本当に70年前に、戦争なんておきてたの？」っていうほどの都会でびっくりしました。それでも、そのあとに私は、平和記念資料館に行つて、戦争の本当の「怖ろしさ、恐さ、悲惨さ」などを改めて知りました。

バスの中で、バスガイドさんに「はだしのゲン、さだ子ちゃん」のお話を聞いて、さだ子ちゃんは、戦争にまきこまれて、学校では活躍していたのに、白血病になつてしまふなんて、あまりにもかわいそうで、今、さだ子ちゃんがいたら、はげまして、勇気つけて、一緒に千羽づるを折つてあげたい気持ちになりました。さだ子ちゃんが戦争にまきこまれて、白血病になつたときのさだ子ちゃんの気持ちは、「もっと生きたかつたな、学校に行きたいな」という気持ちだつたと思います。

はだしのゲンの、ゲンは、父、姉、弟、さらに、新しく産まれたゲンの妹の4人の命を戦争でうばわれて、よくたくましく、元気で生きていけたなと思ひました。

平和記念資料館で、1番印象にのこつたのが、「たれ下がつた皮ふ」、「はがれたつめ」、「こげた三輪車」などの物や写真

です。これらの物や写真を見て、本当に戦争がおきたことが、よくわかりました。

被爆体験者の人のお話を聞いて、戦争の悲惨さが伝わってきました。でも私は、そんな悲惨な話を思い出して、いろいろな人に伝えて、悲しいとか、こわいとかの感情は、出てこないのかなとずっと疑問に思っていました。

原爆ドームを間近で見て、よく観察してみると、中に階段がありました。その階段はぼろぼろで、下の方はとぎれていました。原爆ドームは、指でさわるとポロポロと壊れそうだったので、本当に爆心地から近かつたのだと思いました。

図書室で、はだしのゲンを読んだとき、ぞつとしました。人は血だらけで、ガラスの破片が顔や手、足、体などにたくさんさつていた絵だつたのです。今、思い出せば、こわくなつてきます。

私は、一生、戦争なんてしてほしくないと思ひました。

広島派遣団で体験したことは、絶対にむだにはしたくないと思つたので、色々な人に、戦争のおそろしさ、こわさなどを伝えていきたいと思ひました。また、広島派遣団に、色々な人が参加してほしいと思ひました。



原爆の恐ろしさ



青谷小学校 6年

川嶋 悠夏

私は、七月二十三日と二十四日に、広島派遣団として、広島へ行きました。バスの中から広島を見ると、七十年前に原爆が投下されて、焼け野原になっていたとは、全然思えませんでした。そのぐらい広島は、都会でした。

初めに、地下の展示場を見学に行きました。ここでは、爆風で真っ黒こげになったお弁当や、当時お父さんが大切にしていたトルコ石、毛髪などが展示してありました。心が苦しくなるようなものも展示していました。身内の人が原爆で亡くなってしまうと、家族の形見として持っているのだなと思いました。

次に平和記念資料館に行きました。一番印象に残っているのは、ロウ人形です。皮フが焼けただけ、髪の毛はちりちりで、「水をくれ、水をくれ。」と手をのばしている親子。目をそむけたくなるようなロウ人形ですが、

「これが、当時の広島の様子なのだ。」と、しっかりと目に焼きつけました。

次に、被爆体験者の方にお話を聞きました。聞いたお話の中で、私がかわいそうだなあと思ったところは、語り部さんの前で、女の子が、

「わーん、わーん、なんて私は親不孝なんだ。お父さんお

母さん、私を探さないで。」

と大声でさけび、バタツと倒れて死んでしまったという話です。私はそれを聞いて、悲しくなりました。なぜなら、その女の子にも夢があっただろうに、核兵器の実験のためだけに、命を落として夢も壊されてしまったからです。

一日目の夜、班のみんなが集めた千羽づるに、これからの目標をかって発表しました。

二日目、まず、平和記念公園に行きました。亡くなってしまった被爆者達の慰霊碑に行きました。慰霊碑は、トンネルの形をしていて穴の下に、

「安らかにねむってください。もう、あのようなことはしませんから。」と書いてありました。

次に二つの慰霊碑に行きました。その慰霊碑は、建物疎開をしていた時に被爆された中学生達の慰霊碑でした。がんばって働いていたのに、死んでしまったのは、かわいそうだなと思いました。

私が一番楽しみにしていた原爆ドームに行きました。原爆ドームは、なにかひきつけられるようなものを感じました。やっぱり、写真と全然ちがいました。

私は、この広島派遣団に参加して、七十年前に、広島にリトル・ボーイという原爆が落ちたこと、そこで、「これから百年は草も生えないだろう」といわれたこと、核兵器は、二度と使ってはならないことを学びました。今回、広島派遣団に参加して、とてもよかったです。

広島での学び



青谷小学校 6年

木下 瞳 月

私は広島派遣団として、原爆が落とされてたっくさんの人々が一瞬にして亡くなったという広島へ行きました。でも、広島に着いた時、私はそんなおそろしい事がこの街であったなんて信じられませんでした。なぜなら、原爆が落とされて建物も植物も人々もたっくさん消えてしまったと聞いたのに、目の前に広がっていたのは、建物も植物もいっぱいあって、人もたっくさんいるにぎやかで楽しそうな街だったからです。

私たちはまず資料館へ行きました。そこで私は強い衝撃を受け、思わず立ちすくんでしまいました。そこには、原爆によって皮ふが垂れ下がり苦しそうな顔をした人の人形や、八時十五分で止まった時計がありました。また、放射線によって被害を受けた人たちの残酷な写真もありました。すごくこわくて目をそむけなくなりました。これは実際に起こった事なので知っておかなくてはいけないと思い、一つ一つを目に焼き付けました。

次に、被爆した方のお話を聞きました。そこで改めて原爆の残した深い傷が分かりました。約70年もたった今、記憶がうすれてきたのではないかと思っていたけれど全く違い、お話しはすごく鮮明な記憶で語られていました。深い心の傷は消える事なく被爆した方を苦しめていて、泣きながら語ってく

れていたところに胸が痛くなりました。そして戦争や原爆が無ければ、こんなに人々が苦しんだり、何気ない生活を失ったりする事がなかったのにと、やりきれない気持ちでいっぱいになりました。

次の日は、原爆で亡くなった方の慰霊碑や原爆の子の像に行きました。私と同じ位の年の子たちもたっくさん働かされて、勉強もできなくて、そんな時に原爆の被害にあって亡くなっていったそうです。それに対して、今の私の日常生活は勉強する事ができて、働かなくてもよくて、何不自由なく暮らしています。だから、私の「当たり前の日」は決して当たり前ではなく、とてもありがたい事なのです。

今回の広島派遣団に参加して、私は、原爆を被爆した方々の心にどれだけ深い傷をつけたのか、そしてどんなにおそろしい兵器なのかよく分かりました。それと同時に、今の私たちの平和な毎日が、いかに幸せなのか気付かされました。

私は、戦争や原爆はもう二度と起こってはいけないと思います。そのために私たちができる事、それは、日本や広島で何があつたのかを知り、たっくさんの人に「日本でこんな事があつたんだよ。」「戦争ってこんなに命を奪うんだよ。」「と伝えていく事だと思います。そして、亡くなった方の分まで命を大切に、今を精一杯生きていく事が大事だと感じました。



原爆のおそろしさ



青谷小学校 6年

島 本 綾 音

私は、広島原爆のことを勉強できる機会だと思い、参加しました。

はじめに平和記念資料館へ行きました。

私は、原爆にあうとどんなふうが変わってしまうのか知りませんでした。でも、八時十五分で止まった時計や、ポロポロになってしまった制服、黒こげになってしまった弁当箱など、見ているだけで原爆のおそろしさが伝わってきました。

その後、被爆体験者の話を聞きました。

資料館では被爆した物を見ているだけだったけど、実際に被爆された方の話を聞くことで、当時の様子が詳しくわかりました。

旅館につくと、他の学校の部屋の人たちともすぐに友達になれました。

二日目は、平和記念公園に行きました。

お花を捧げたあと、折ってきた鶴を捧げました。爆心地に向かっている途中の道に、いっぱい草木がはえていて、原爆が本当に落とされたと思えないほど、きれいな街に生まれ変わっていました。

現在爆心地は、内科の病院でした。原爆ドームへ行ってみると、くずれたがれきが下に散らばっていて粉々でした。私

は、がれきを見た時、広島の人は大変辛い気持ちの中すごくがんばって、きれいな広島街を取り戻したんだなあと思いました。

私は、「平和のための小中学生広島派遣団」に参加して、改めて戦争は絶対にしてはいけない、させてはいけない、そして、友達や自分の身近な人に今回学んだことを伝えていきたいと思いました。



広島派遣団に参加して



青谷小学校 6年

飛川華子

私が広島派遣団に参加したのは、友達に誘われて、この機会しか行くことがないかもしれないと思い、広島のことを知るいい機会になると思ったからです。広島に行く前は、怖い所だと私は思い込んでいました。でも行ってみると、原爆が落ちたとは思えないくらい、キレイな町でした。

最初は、資料館地下展示場に行つて見学しました。悲しく残った服やズボンなどがおいてあつて、見ただけですごく強い原爆だったんだなあと思いました。

次に、平和記念資料館に行つて、音声ガイドを耳に付けて見学しました。黒こげの弁当箱や三輪車、ボロボロになった服や写真などが展示してありました。こげた弁当箱や穴の開いた服などを見ているだけで、原爆の怖さが分かったような気がしました。音声ガイドの声は、とても悲しそうな声に聞こえました。

次に、被爆体験者の話を聞きました。やはり、原爆の本を読むより、体験者の話を聞く方が、辛さや苦しみが分かりました。

次に、旅館に行つて、お風呂に入り、ご飯を食べて、ミーティングをして、部屋に戻り、話をしたり、ゲームをしたり、おかしを食べたりして、楽しんでいました。こうして今は昔

とはちがつて、原爆は落ちてこないから、楽しく過ごせていることに、私は幸せをすごく心に感じました。

二日目は、ご飯を食べて、広島平和記念公園・慰霊碑・原爆ドーム・爆心地に行つて見学しました。慰霊碑に花をささげたり、原爆の子の像に折りづるをささげました。私は、一人ずつのお墓だと思つていたけれど、大勢の人で眠っていることが分かりました。私は心の中で、一人で眠るのは寂しいからかなあと思いました。折りづるは、たくさん飾つてあつたので、サダコちゃんは折りづるが好きだから、とつてもうれしいんじゃないかなあと思いました。

次に、追悼平和祈念館に行つて見学しました。原爆体験者の話の動画や写真などを見ました。話している動画を見て、原爆のことを思い出して話していると思うから、とても辛そうに見えました。写真を見て、原爆の時の辛さや怖さが改めて分かりました。

お昼ご飯に広島焼きを作つて食べました。原爆の時は、お好み焼きなどなかつて、美味しい物はあまり食べてないと思います。私たちは美味しい物を食べれて、すごく幸せだと思いました。

サービスエリアでお土産を買いました。昔は、お土産などを買うお金がなかったと思います。私たちはすごく、恵まれていると思いました。

広島の旅が終わわり、私は、

「もう二度と広島の人々にも、世界中の人々にも、辛い思いや怖い思い、悲しい思い、寂しい思いをしてほしくない。」と改めて、強く思いました。

広島派遣団に参加して



青谷小学校 6年

曾 束 昂 祐

ぼくが広島派遣団に参加したかった理由は、広島でどんな事が起きたのか、すごく知りたかったのと、自分の目で見たかったからです。

一日目に平和記念資料館に行きました。資料館で展示されているのは、熱で折れ曲がった三輪車や黒く焼けた鉄かぶと、中身が炭になつてお弁当箱等で、原爆の光線がかべに残つた人のかげもありました。ぼくは、なぜこのような戦争で、「多くの人が亡くなったのか」、原爆のこわさを知りました。音声ガイドを耳に当て説明を聞くと、原爆でひふが焼けはがれたり、黒くなったつめ等の話がありました。ぼくは話を聞いてすごく怖くなりました。

次に被爆体験者の方のお話を聞きました。約90年前、戦争が起ころまでの日本は優秀な国だと言われていました。戦争が始まり日本のあちこちで空襲があり、日本は焼け野原になつたと話がありました。

火傷をした女の子や、亡くなつた人が山の様になつて写真等、恐ろしい写真が沢山ありました。ぼくは、被爆体験者の方の話を聞いて、戦争は笑顔がなくなり、人々がみんな悲しくなるのだと感じました。ぼくは戦争は絶対にやっつけないといけないと思いました。人々が殺し合う事でみんなの笑顔が



なくなり、悲しみだけが残るからです。ぼくは戦争のない現代に生まれて幸せです。今、この命を大切にしていかなければいけないと思ひました。広島派遣団に参加できて良かったです。

二度と戦争はおこってはいけない…



久世小学校 6年

長谷川 由奈

私が、広島派遣団に参加した理由は、戦争のこと、広島に落とされた原爆のことについて知りたいと思ったからです。

まず、資料館に行きました。音声ガイドを付けて、中に入って行きました。中に入ってからすぐに、原爆が落ちた時の人々が人形で再現されていました。ひふははがれて、肉が丸見えになっていました。すぐくわかったけど、しっかり見とおこうと思い、目に焼きつくまで見ました。他にも、黒くなったツメが印象に残っています。黒くなったツメには血管がとおっていたそうです。髪の毛は、くしを3回とおすだけで抜け、瓦はドロドロにとけていました。瓦の表面は、固まるときに空気が入ってぶつぶつしていました。こげた三輪車は、ちょうど三輪車で遊んでいるときに原爆が落ちたらしいです。今にも壊れてしまいそうです。

語り部さんのお話は、想像するとおそろしかったです。8月に入ってからのことです。アメリカが世界にほこる飛行機『B-29』は広島上空をぐるぐるまわって、なにもせずにもどっていったそうです。なので、これは大変なことになるぞ！と思ったそうです。そして、8月6日8時15分、原子爆弾が落下しました。「いたい、助けて！」という声は壊れた家の下から聞こえたそうです。あまりにもおそろしく、思い出す

のもつらいような話をして下さいました。

次の日は、慰霊碑に花をささげました。心から強く二度と戦争がおこりませんようにと祈りました。

そして、原爆の子の像に折りづるをささげました。

原爆ドームは、すぐく心に残りました。爆心地から約160mしか離れていないのに、形が残っていてすごいなあと思って思いました。原爆が落ちる前のドームは、ぜんぜん印象が違いました。

私は、広島派遣団に参加して、今まで知ることでもできなかったことも、たくさん知ることができました。原爆のおそろしさも、広島に行ったからこそわかることがたくさんありました。それに、知らない学校の人も友達になれたこともいい思い出です。

これからは、戦争のことや原爆のことをたくさん調べたいと思います。



繰り返してはいけない過ち



久世小学校 6年

前野夏穂

私は、申し込みをしましたでしたが補欠だったので、行くことはないと思っていました。行くことになって嬉しかったのと、いきなりだったのでおどろきました。でもその後が大変で、一週間で折り紙のつるを五十羽作るのは疲れたし、資料を読むにも時間がありませんでした。行くことになって、私が一つ心配だったことがありました。それは他の人は一度事前説明会で会っているけど、私だけ行ってなかったの、皆に馴染めるかということでした。でもいざ行ってみると、皆優しく接してくれたのでよかったです。

バスの中では禎子ちゃんの話や、はだしのゲンの話を聞きました。私の学校には、はだしのゲンの本があるので、本を読んでもよようと思えました。資料館では有名な真つ黒なお弁当や、朝の八時十五分で止まった時計などが見れました。イヤホンを付けて説明を聞き展示物を見てみると、まるで自分が被爆者になったように思えてきました。でも本当にその場にいた人達は、自分が感じている何倍も苦しかったんだろうなとも思えてきました。私は四年生の時一度来ていたけれど、戦争のことはあまり知らなかったの、今回改めて戦争のことを知ることが出来ました。ホテルでは他の学校の友達と学校のことや、友達、自分のことなど色々話せたりして楽しかった。

たです。夜には枕投げをして、皆疲れてぐっすりねむってしまいました。

私は、この二日間で一番印象に残っているのは、被爆体験者の講話です。被爆者の話では、あちこちから「熱いよ、熱いよ、助けて。」などの悲鳴が上がって、家々は燃えていて、そこは地獄のようだったそうです。今の広島を見ても、そんなことがあつたなんて誰も思う人はいないと思います。でも本当にそんなことが起こったんだから、自分は関係ないと言つて目を背向けるのではなく、この話を多くの人に聞いてもらい、戦争がいかに残酷で、もう二度と繰り返してはいけないことだということを知ってもらいたいです。今、国会では自衛隊を動かすかどうかでもめています。でも私は、二度と同じ過ちを繰り返してはいけないと思うので、そんなことをしてはいけないと思います。



戦後七十年の広島へ



寺田小学校 6年

寺 矢 拓 斗

ぼくが今年広島派遣団に参加した理由は、「はだしのゲン」を読んで、広島に行って戦争や平和について学びたいなと思ったからです。

バスで約五時間、ビンゴゲームなどをしてようやく広島に着きました。ぼくが想像していたよりも広島は大会で、大きな建物がたくさん目に入ってきました。緑がとても多くて、七十年前の八月六日に原爆が落とされたとは想像もつきません。

昼食後、平和記念資料館を見学しました。

一番印象に残ったのは、焼けたろう人形の姿です。ひふがたれ下がって、手を前につき出して歩いている姿は、誰かに助けを求めているようでした。他にも、ドロドロにとけたビールビンや焼けこげた三輪車や手紙などが展示されていました。ぼくはそれらを見ながら「はだしのゲン」を思い出していました。

原爆はとても恐ろしい物です。

バスガイドさんの話によると、爆心地周辺の地表の温度は三千度から四千度もあり、近くにいた人は、ほとんどが即死だったそうです。ほかに、広島には七十年は草や木は生えないなどと言われていました。それなのに、今は草や木がた

くさん生いしげっています。これは被爆者の人達のけん命な活動によって、ここまできれいになったのだと思います。

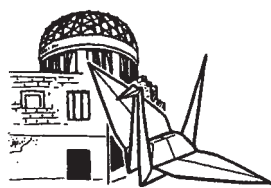
その日の夜、班でミーティングをしました。みんなが作った千羽鶴を一つに束ねながら、五・七・五で平和への願いを書きました。

二日目は、原爆ドームに向かいました。ぼくは、原爆ドームの写真を何枚もとりました。それは、家族に見せたかったです。

原爆ドームの近くの店で、アイスを買いました。ドームを見ながら食べたアイスの味は、とてもおいしくて、ぼくにとって心に残る味でした。

戦後七十年の今、ぼくらの暮らしは平和です。食べ物や衣服もたくさんあり、家族と共に食事をしたり、友達と遊んだりすることがあたりまえのように暮らしています。

今回広島に行って、戦争の恐ろしさや悲しさをより深く知ることができ、平和への願いが以前よりも大きくなりました。この二日間の経験をこれからも忘れず、心に刻んでしっかりと歩んでいきたいと思います。



命の大切さ



寺田西小学校 6年

山元 夢羽

私が、広島派遣団に参加したわけは、広島のことを何も知らなくて、広島についてもっと知りたかったからです。最初は、原爆が落とされた日や時間も知りませんでした。だからお母さんに行ったらと薦められて行きました。行ってみると、知らないことや言葉が多かったので、事前にもっと調べておいたら良かったなと思いました。

一日目、資料館地下の展示場に行きました。うで時計やかばん、服などすべてが焼けこげていて、テレビとか話で聞くよりも、ずっと悲惨でこわかったです。次に平和記念資料館に行きました。音声ガイドと展示物を重ね合わせて聞くと、話の中にすぐに入っていて、とてもおそろしかったです。さわつていい展示物もあって、色々な形に変形したかわらの表面をさわらせてもらいました。原爆が落とされた時、かわら同士が重なっていなかった所は、さらさらしていて、重なっていた所は、つるつるしていました。そのちがいに、とてもおどろきました。事前の講習会で気になっていた黒い雨については、原子爆弾による、放射性降下物が含まれていることが分かりました。

二日目、慰霊碑に花をささげに行きました。この下に、何百人もの人がうまっていると思うと、とてもかわいそうな気

持ちになりました。次に爆心地に行きました。そこには内科の病院がありました。当時、原爆で燃やされたけど、また同じ場所に建てなおしていました。私は、建てなおした人は、すごく勇気のある人だなと思いました。一度爆心地になったのに、建てなおすすごいなと思いました。次に原爆ドームに行きました。爆心地から、そんなに離れていないのに、まだ半分ぐらい残っていてすごいなと思いました。最後に原爆の子の像に折りづるをささげに行きました。たくさん折りづるがささげられていました。

私は、この二日間で、今こうして不自由なく生活できていることの大切さ、喜びを学びました。これから先二度と戦争をしてほしくないと思いました。



ふれて初めて分かる事



寺田南小学校 6年

高田 真優

頑丈な鉄柱で支えられ、さわつたら今にも壊れそうな原爆ドームを初めて生で見えて、私はここが人類史上初の原爆が投下された町なんだと実感しました。地獄のような焼け野原の面影などはなく、見事に活気にあふれている広島町の町も、無数の無惨な死体を焼いた地の上にあるのだと考えると、旅を終えた今でもぞつとします。本やテレビでよく見かける焼けこげた弁当や、八時十五分で止まった時計を見た時は、烈火の中、苦しみながら死んでいった人々の悲痛な叫びが聞こえてきそうで、なんともいえぬ威圧感を感じました。そして、その資料館には私達日本人だけではなく、海外から来た観光客の方があちらこちらで熱心に音声ガイドに聞き入っていました。別の観光地へ向かうついでに寄ったのか、それとも原爆の事実を知りたくて来たのか、訪れた理由は人それぞれでも、原爆の真実を学ぼうという勇氣があるのは、すごいことだなと思います。私は一部の展示品を見ることに抵抗してしまっただけ、外国の方はほとんどが真つすぐに展示品を見ていました。戦後七十年がたった今でも、戦争で他国がどのような被害を受けたのかを知りたいという人が、こんなにいるのだと、とても強い印象を受けました。

広島に原爆が落とされた年月と月日、時刻は知ってしまし

たが、何故広島市に原子爆弾が落とされたのかは、今回の広島派遣団の活動で初めて知りました。講話をされた被爆者の方に、広島市には軍の本拠地があったと聞いて、アメリカ軍が広島市をねらった理由が分かりました。ですが、原子爆弾により奪われたのは日本の軍事力だけではなく、何百何千という女性や子供達の命だというまぎれもない事実があります。そして、このことを私達を知ることができたのは、語り部の方々が話したくも思い出したくもない記憶を、口を開いて伝えてくださったからなのだと思えました。

私は、今回の旅で戦争を防ぐために、自分が何をすればよいかを知ることができました。被爆者の方に「あなた達が平和な未来に日本を導いて下さい。」と言われても、今までは実際に何をすれば良いのか分かりませんでした。でも、旅の一日目に講話をして下さった方の言葉から、一代もぬかさず、次の世代に自分が聞いてきたこと、見てきたこと、学んできたことを伝えるのが、私達の役目だと心から思いました。私は、資料で学んだことより、被爆者の体験談に多くの衝撃を受けました。下級生に自分の体験を話し、戦争や原爆についてもっと深く知ってもらいたいと思います。



広島派遣団に参加して



富野小学校 6年

内田 華音

私は、友達にさそわれて、この広島派遣団に参加しました。でも、私は、原爆や戦争のことは全然知らなかったし、広島県に原爆が落とされたのも知りませんでした。広島派遣団に参加して学んで心に残った三つのことと、広島派遣団に参加して楽しかったことを伝えたいと思います。

一つ目は、平和記念資料館です。

平和記念資料館では、音声ガイドをつけて説明を受けながら見学しました。資料館には黒こげになった三輪車やお弁当箱、制服などが展示してありました。それに、体にやけどをおった姿の写真も展示してありました。私は、被爆者の方がどんなに苦しくて悲しいのかが伝わりました。

二つ目は、爆心地です。

爆心地は、島外科内科という病院でした。なにより病院の前に原爆が落とされたのが可哀想でした。なぜかというところ、病院に入院をしていた人もいたからです。でも、院長は出張をされていて助かりました。今も島外科内科として建っています。

三つ目は、原爆の子の像です。

原爆の子の像では、つるがいっぱい吊ってありました。私は、南部コミセンで折ってもらったつるを代表として、吊り

ました。それに、つるで文字を作るアートを見て私は、「すごいな」と思いました。

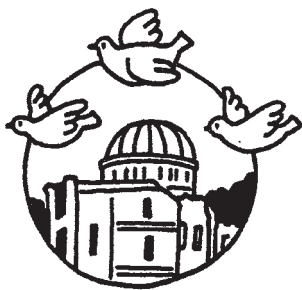
ここからは、広島派遣団に参加して楽しかったことを三つ伝えます。

一つ目は、他の学校の人と友達になれたことです。なぜなら、他の学校の人と友達になる機会はありませんが、広島派遣団では、他の学校の人も友達になる機会があり、仲良くなれるからです。

二つ目は、旅館で部屋がいつしよになった友達とゲームしたりしゃべったりしたことです。なぜなら、みんなで笑ったり、楽しくゲームがやれたからです。

三つ目は、広島風お好み焼き体験です。なぜなら、自分で作ったのを食べれるからです。でも、私をはじめ食べた広島焼と広島県で食べた広島焼が、少しちがっていたのでビックリしました。

広島派遣団に参加して、勉強になったし、楽しかったです。



広島派遣団に参加して



富野小学校 6年

野中優姫

私は、広島派遣団に参加して、色々な場所を見学しましたが、一番心に残っているのは、平和資料館に展示されていた、「黒いツメ」です。平和資料館には他にも、「曲がったビン」や、「八時十五分に止まった時計」。また、平和公園の「原爆ドーム」や、有名なものや、印象に残るような特徴があるようなものがたくさんあり、そのようなものが心に残った人はたくさんいると思いますし、実際、私自身にも、とても大きな印象が残りました。それでも、一番に残ったのは、「黒いツメ」です。色々なものがあつた中で、「黒いツメ」が一番に残ったのは、他のものに対しての感じ方と、少し違っていたからです。

私が「黒いツメ」以外のものに対して感じたことは、ほとんどが、「とても苦しかったんだろうな」とか、「もし、私が今、同じようなことになったらどうしていたのかな。」というように、他人事のように感じていました。でも、「黒いツメ」を見て感じたことは、「なぜ、こうなったのだろう」という疑問と、「こわい」という恐怖でした。他のものに対しての感じ方と違ったことで、私に大きな印象を与えました。

それから、一番楽しかったのは、旅館で友達と話したり、ご飯を食べたりしたことです。部屋の中で、ゲームをしたと

きは、みんなが笑っていたし、とても楽しかったです。二日目、広島焼きは、少し失敗したけれど、とても楽しかったです、おいしかったです。また、家でも作るがあるので、積極的に挑戦しようと思いました。

広島派遣団に参加して、色々なことがあつて、たくさん思い出ができました。一日目は、目をそむけたくなるようなものを見たりもしたけど、旅館ではとても楽しく過ごせましたし、二日目は、広島焼きを作ったのが、とても楽しくて、大きく印象に残っています。一日目と二日目を思い出して、一番に思うことは、「楽しい」ということでした。私は、広島派遣団に参加してよかったと思ったので、友達や身内の人に伝えようと思います。



広島に行つて学んだこと



深谷小学校 6年

橙 初音

私が広島派遣団に参加した理由は二つあります。友達にさわられたのと、戦争について知りたかったからです。

一日目は、平和資料館に行きました。一番心にのこったのは「はがれた手の皮とつめ」と「親子の模型」で、髪の毛はぐちぐちゃで、ひふがたれ下がっていました。ガイド音声からは「たすけて、水、水、…」という声が聞こえてきました。私は、原子爆弾が落とされることで、想像がつかないほどの、大きな、大きな、被害を、受けるんだと思いました。でも七十年後、草が生えているのか分からないと言われていたのに、今、木や草、花がしげっているのは、広島の人達の努力や、広島以外の人々の願いの支えなどがあるおかげだと思いました。

原爆について、話してくれた人の年齢は亡くなったおおじいちゃんぐらいの人でした。その人の話によると、戦争中の八月に入って、アメリカの爆撃機が飛んできて、広島のをぐるぐる回って帰っていったそうです。それが何日も続いたそうです。八月六日もいつものようにアメリカの爆撃機が空をぐるぐる回っていました。広島の人たちは今日も、また帰っていくだろうと思いましたが、普通になっていました。でも、いつもとは違い、「ピカッ。」と光って、爆弾を落としました。それが原

子爆弾だったそうです。トラックに死体をたくさんつんで生きている人も、つんでそのまま亡くなっていった人もいます。私はこの話をきいて、同じ事をくり返してはいけなと思いました。

私の妹の誕生日は八月六日で、原爆が落とされた日と同じだという事に気がつきました。いつもなら、ケーキを食べて、誕生日を祝うだけだけど、今年は、妹や弟にも話して、このままずっと、平和でありますようにと願いながら、誕生日も祝いたいです。この派遣団に参加して、いかに、戦争が、悲惨で多くの人の命をうばうかが分かった。

これからは、自分の命を大切に、この思いをみんなに伝えていきたいです。



原爆でうばうもの



古川小学校 6年

栗山 珠璃華

私は学校で、広島派遣団の事を知りました。私は、原爆の事は少しだけしか、知りませんでした。

私は原爆や戦争のいろんな事を知りたいと思ったから、この、広島派遣団に行きました。私がこの二日間で一番心の中に残った五つの事を、お伝えします。

一つ目は、平和資料館です。

平和資料館の中には、戦争後のやけどの写真や実際に着ていた服もありました。原爆で、顔をやけどして皮ふがめくれながら走っている親子を再現した人形がありました。私はそれを見ましたが、悲惨なものでした。

二つ目は原爆ドームです。

二日目に行った原爆ドームは、初めてでドキドキしていました。原爆ドームは写真では何回も見ていたけど、実際では、初めて見るのですごく感動しました。私は原爆ドームは小さいと思っていたけど、ものすごく大きかったので、ビックリしました。この原爆ドームのすぐ近くで爆弾が落とされたのに、全部つぶれなかったので私はすごいなと思いました。

三つ目は、つるを捧げたことです。

さだこさんの像で折り紙のつるを持っていてるので、すごいなと思いました。像は、初めて見るのですすごいなと思いま

た。私が行った時には、もう千羽づるでいっぱいでした。私は、古川小学校の代表に選ばれて千羽づるを捧げました。つるでハートとかやっていたので、「よく、こんなやつ作れたなあ」と、思いました。

四つ目はお好み焼きです。

広島のお好み焼きは有名と聞いたので、「早くたべたい!」と思いました。私は、お好み焼きを作るのは、初めてで、ドキドキしていました。作り方は「難しそう」と思ったけど、意外と簡単でした。けど、お好み焼きを自分の方にひっくりかえすのが、一番難しかったです。焼いている時すごく熱かったです。自分で作り終わったらジュースのコーラができて、初めて作ったお好み焼きを食べました。広島のお好み焼きは、「すっごくおいしいなあ!」と思いました。けど、麺とかあったので、すごくボリュームがありました。けど、「すっごくおいしいかった」と思いました。

五つ目はおみやげです。

広島には、広島だけにしかない、おみやげがいっぱいあってビックリしました。どれを買おうか、すっごく迷いました。私は広島に行つて、大事な人とかが、うばわれることが分かりました。原爆は、悲しい事だけど、原爆のことがすごく分かりました。中学生になったら、また行きたい!と、私は思いました。

広島に行つて



古川小学校 6年

松本璃月

ぼくは、広島のことには原爆が落ちた場所くらいは認識しありませんでした。

ぼくが広島に行きたいと思った理由は、日本人なら昔日本であつたことを知っておかないといけないと思つたからです。

広島街は、思つたより広くて、高いビルも多かつたのでびっくりしました。

はじめに平和記念資料館に行きました。原爆が落ちた時の惨状が写真や文で表わされていて、こげた弁当箱などが展示されていて、見ているだけで、少し気分が悪くなりました。本当にこのような事が昔起きたと考えると、少し背筋がぞわつとしました。

この次に被爆者の人の講話を聞きました。被爆者の人の講話は、その人が体験した事をじっくりと話されていて、ここでも原爆のこわさがしつかりと伝わってきて、少しこわかつたです。

2日目は、原爆ドームなどを回りました。はじめは、広島平和公園にある、原爆死没者慰霊碑に行つて、花をささげました。

次に、広島二中原爆慰霊碑に行きました。慰霊碑の裏に

は、広島二中の人の名前が書いてありました。中学生の命もうばつていくなつて、原爆はおそろしい物だと思いました。

次に爆心地に行きました。爆心地は病院でした。

次に原爆ドームに行きました。原爆ドームは写真などにある通りで、一番上は骨格がでていて、いろんな所のかべがなくなつていました。

次に原爆の子の像に行きました。像の周りには大きなケースミたいなものがあつました。その中には折りづるがたくさん入つていて、いろいろな人が平和を祈つているのだなあと感じました。像の下にはいろいろな考えさせる文章があつて、これも平和でよかつたと思わせるものでした。

広島に行つて、原爆は、人のなにかも奪つてしまうものなのだなと思ひました。原爆で数えきれないような数の人が死んでしまつて、生きていた人も、いろいろな病気で苦しんでいます。原爆という怖いものは二度と使用せず、戦争もない世界になるようになってほしいです。

広島に行つて、原爆のおそろしさをしつかりと知れてよかつたです。



広島に行つて



古川小学校 6年

上屋 美 結

私は広島派遣団に参加しました。私が広島派遣団に参加した理由は、原爆の事について知りたかったからです。

1日目、まず最初に平和記念資料館に行きました。そこには中学生の残したツメと皮ふや焦げて真っ黒になったお弁当、広島に投下された原子爆弾の模型が展示されていました。その原子爆弾は約3mぐらいの大きさでした。その爆弾で人のひふが溶けたりしてしまうと考えると、とても苦しかったです。だろうなあと思います。

次に被爆者の講話を聞きました。実際に体験された方の話を聞くと、どれだけ大変だったか分かりました。被爆者のお話を聞いた私は、もう絶対に戦争なんてしてほしくないし心から思いました。戦争で苦しみ死にたくないのに亡くなってしまった方がいるので、私はこの戦争のない平和に暮らしているから、苦しみ亡くなった人の分までがんばろう！と思います。

講話の人の話を聞いた後、バスで旅館に行きました。旅館で寝る前、学校の友達と、寝る部屋が同じだった新しいお友達としゃべっていました。

そして朝起きて旅館を出て、原爆死没者慰霊碑に行きました。そこでは、気持ちをこめて花をささげました。

花をささげた後、原爆の子の像のところに行き、お家で折ってきた五十羽のつると私達の学校で折った千羽づるをささげました。そこにはたくさんボックスみたいなものがあり、つるがボックスいっぱいにはささげられていました。これだけあると原爆で亡くなってしまった方達も少しは幸せに思ってくれているだろうなと思います。

次に、原爆ドームを見ました。原爆ドームは、日本の広島に投下された原子爆弾の惨禍を今に伝える記念碑であることを知り、原爆で苦しい思いをした人達のためにも大切だと思いました。

次に、原子爆弾が落ちた爆心地に行きました。ガイドさんが原子爆弾は約3000度と言っていたので、私はすっごくびっくりしました。私は、爆心地はもつとぐちゃぐちゃになっていると思っていたけど、とってもきれいになっていました。でも投下されているところに実際立っていると考えると、体がぶるぶるとふるえました。

爆心地に行った後、追悼平和祈念館まで見学に行きました。そこには時計が置いてあり時計の針は、投下された時間になっていました。水が流れていました。投下されて熱いときにみんなが「水をくれー。」と言っていたらしいから、みんなに水を、という意味だと知り、この時計にはいろんな意味があるんだなあと思いました。

そこに行った後、広島焼き作りの体験をしました。おいしく作れてよかったです。

広島に行つてたくさんのお話を勉強できたので、このことを学校の友達に伝えていこうと思います。

広島派遣団に参加して



古川小学校 6年

赤 治 佳 穂

7月23日24日に、「平和のための小中学生広島派遣団」として広島に行きました。

私は、広島について、詳しいことは何も知りませんでした。けれども、広島に行くことができ、原爆がどれほどおそろしいものかということが分かりました。

まず、「平和記念資料館」に行きました。資料館には被爆者の遺品などがたくさん展示されていました。「黒こげになった弁当」や、「黒こげになった制服」がありました。また、目をそむけたくないような写真もありました。私は、その遺品や写真を見てみると、とても悲しくなりました。そして、一瞬にして、人や家を吹き飛ばしてしまう原爆は、とてもとてもおそろしいものだとてもよく分かりました。

被爆体験者の方の講話も聞きました。70年前の原爆の実態を教えて下さいました。講話を聞いて、二度と戦争はしてはいけないと思いました。

二日目は、平和記念公園に行つて、慰霊碑に花をささげた後、原爆の子の像に私達が作った折り鶴をささげました。原爆の子の像の周りには、とてもたくさん折り鶴がささげられていました。全国各地から、平和を願っているたくさんの人々が訪れているのだなあと思いました。

とくに、私の心の中に残ったのは、「原爆ドーム」です。原爆ドームはテレビのニュースなどでは見たことがあったけど、生では見たことがなかったので、とてもいい経験になりました。原爆が落とされる前と落とされた後では、風景が大きく変わっていました。落とされる前の写真は、建物も大きくて写真だけで頑丈な事が伝わってきました。けれども、後の写真では、骨組みが丸見えで、原爆のおそろしさが伝わってきました。

私は広島派遣団に参加して、たくさんいい経験ができて良かったと思います。広島に行つて、戦争がどれだけ悲惨なことか、命はとても大切なことが改めてよく分かりました。

今、よく耳にする「安全保障関連法案」が衆院を通過したそうです。これは、日本が戦争をする国になってしまうかもしれない。このことを聞いて、私は、絶対に戦争をしてはいけなと思います。何も悪くないたくさんの人々が亡くなってしまうだけで、良いことがひとつもおこらないからです。

戦後70年というところで、戦争を知っている人が少なくなっています。なので、私達が教えてもらった事を伝えていきたいと思ひます。

今の平和な日本がずっと続いてほしいです。そして、戦争がなく平和な世界になることを願ひ続けたいと思ひます。

原爆は人の一生をかえる



古川小学校 6年

木村 光輝

ぼくが広島派遣団に入った理由は、広島に原爆が落とされているのは知ってたけど、そこまで詳しくは知らなかったからです。

はじめ、バスが広島の旅館について、バスからおりました。ぼくは、広島に行くのがはじめてで、外の景色は、京都と良くていきました。終戦から70年で戦争の跡がなくなっていてびっくりしました。旅館に入って弁当を食べました。弁当を食べた後、平和記念資料館を見学しました。バスをおりたら外国人がたくさんいました。広島に原爆が落とされたことを外国人も知っていることにびっくりしました。

平和記念資料館の中に入ると、戦争についての写真がたくさん貼ってありました。グループごとに見学していくと、その当時のくつや、服、8時15分で止まった時計など、さまざまなものが展示されてありました。その中でぼくが一番衝撃を受けたのは、被爆者の写真です。顔にぶつぶつができている人の写真もありました。

つぎに、被爆者の講話を聞きました。その人の話で一番衝撃を受けたのは、川が赤くなっていて、生温くなっているという所です。たくさんの方がその川につかっただんたと思いましたが。

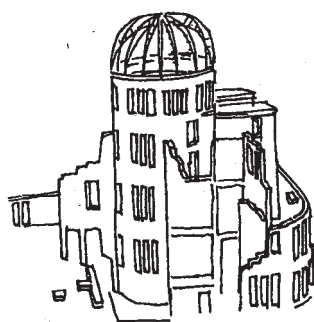
それが終わった後、旅館に入りました。ごはんを食べてお風呂に入った後、折り鶴を束ねてメッセージを書きました。ぼくたちが書いたメッセージは「いつもみんなであらわっていただけること」と書きました。それが終わったら部屋に入って寝ました。

朝起きて、ごはんを食べた後、旅館を出発して、広島平和記念公園内を見学しました。はじめは、爆心地に行きました。そこは今、病院になっていました。

つぎに、原爆ドームを見に行きました。ぼくは、これがとてもすごいと思いました。本やテレビで見たより迫力があり、とても大きかったです。今にも壊れそうなコンクリートなどが、かべになっていました。ぼくはこの原爆ドームを今まで残したことをすごいと思いました。

つぎに、慰霊碑に行つてキクの花をささげました。それが終わったら原爆の子の像に折り鶴をささげました。昼食は、広島風お好み焼を体験しました。とてもおいしかったです。

それが終わると、バスに乗って城陽市に帰ってきました。とてもいい体験でした。



広島へ行って学んだこと



古川小学校 6年

西本麗生

私が、広島派遣団に参加した理由は、二つあります。一つ目は、友だちが行くからです。二つ目は、広島に原爆のおそろしさについて興味を持ち、知りたいと思ったからです。

7月23日～7月24日、広島派遣団でいろいろな小中学校の人達と、広島に行きました。

朝の6時45分ぐらいから出発してお昼に着きました。昼食をとって、平和記念資料館を見学しました。館内に入ると、たくさん資料を見ました。背中が赤くなって、川の中に入っていたりしている絵なり、展示物がありました。一瞬言葉をなくしました。次に、二階に行き、音声ガイドを身につけて見学をしました。ひふがたれさがり、服はボロボロ、背中にはガラスが突きささっている模型や写真などがたくさんありました。とてもビックリして心がはりさけそうになりました。次に、被爆者の話を聞きました。話の中には、グラウンドの真ん中で「あついよ」「助けてー」とさげぶ声が多かったそうです。グラウンドで亡くなった人は約35人だそうです。40人ぐらいの人たちが被爆者さんの看取る中で亡くなったそうです。燃えた人達は、肉が一つもついていなく、骨も折れていたそうです。広島市の90%が燃えたそうです。話を聞いて、とても印象に残りました。

旅館に着いて、お風呂に入って、ごはんを食べました。そのあと、ミーティングがあつて、行動班のみんなで、つるをつなげました。そしてリボンに文字を書き、発表して終わりました。部屋ではしゃいでねました。

二日目は、広島平和記念公園に行つて、慰霊碑で花を捧げた後、広島二中原爆慰霊碑に行きました。その方々は大変な思いをされた事がすごく伝わってきました。

そして次に、原爆ドームに行きました。ドームの骨ぐみがぼろぼろになっていて、被爆前の姿とくらべてみると、とても、ちがいがすごく分かりました。とても、すごい爆弾が落とされた事がよく分かり、たくさんの人たちが苦しい思いをしたことがよく分かり心につきささりました。次に、原爆の子の像に行つて千羽づるを捧げました。そこにはとても多くの千羽づるがあつて、とてもキレイでとてもすこかったです。とても多くの子どもが亡くなつてすこくかわいそうで、悲しかったです。

その後、広島風お好み焼き体験で、お好み焼きを作りました。キャベツがシャキシャキで、めんもパリパリしていて、とてもおいしかったです。

この2日間で、広島でおきた、大変さや苦しさがよく分かりました。そして、これからも、平和がいつまでも、続いていくことを願っています。

初めて広島を訪れて



古川小学校 6年

日 渡 詩 乃

私は、学校で毎年先生から、さだ子ちゃんのお話を聞いていたので、原爆のことは、少しは知っていました。だけど、広島派遣団に参加して、すごく詳しく知ることができました。広島までは、バスに乗って行きました。広島市に入ってから景色を見ると、本当に原爆が落とされたの？と思うぐらいきれいな所でした。

そして、お昼を食べ、平和記念資料館に見学に行きました。地下展示室では、衣服の切れ端や人形、学校のテストや作文、写真などいろいろなものが展示されていました。その中でも、熱で溶かされて、変わり果てたビンに、原爆のおそろしさを感じました。

次に、2階にある資料館で、音声ガイドというものを使って見学していきました。音声ガイドの解説を聞きながら、その時の様子を想像してみると、すごくおそろしいものなんだなと思いました。

次に、被爆体験者の方からお話を聞きました。昭和20年の8月1日ごろから、大きな飛行機が、広島の上空をぐるぐる回り、爆弾等にも落とさず帰っていったそうです。それが何日も続き、6日目の、昭和20年8月6日午前8時15分に原爆が落とされたそうです。毎回にも落とさず帰っていった

ので、今回もいつもと同じだろうと思っていたそうです。一瞬で広島町が火につつまれたそうです。私はその話を聞いて心が痛くなりました。そして、二度とこのようなことがおきてほしくないなと思いました。

そして、1日目の見学が終わり旅館へ行きました。夜8時からのミーティングでは、つるを束ねる作業が難しかったです。そして各班の感想では、色々な感想があつて、みんなの色んな思いが知れて良かったです。

2日目は、まず、原爆死没者慰霊碑に花を捧げました。そのあと、原爆ドームを見に行きました。写真や映像などでは、見たことがあるけど、実際見てみたら、予想以上に大きかったので、びっくりしました。ドームの近くには、レンガやコンクリートが散乱していました。

その他にもいろいろな所を見学しました。その後、広島風お好み焼体験をして帰りました。

私は、この広島派遣団に参加して本当に良かったと改めて思いました。これから二度と、あのような出来事があつてほしくないなと思いました。



戦争と原爆のおそろしさ

京都教育大学附属

桃山中学校 1年

平野雄大



ぼくは、「城陽市平和のための小中学生広島派遣団」に参加しました。そこで、たくさんの戦争や原爆についてのことを学びました。

城陽市からバスで広島まで向かいました。広島に入ると、昔戦争があり原爆が落とされたとは思えないほどに復興していました。でも、原爆ドームだけは、戦争や原爆のおそろしさを物語っていました。

最初は、平和記念資料館と資料館地下展示室に行きました。特に印象に残ったのは、平和記念資料館です。そこには、原爆のおそろしさが分かる写真が並べられていました。この時ぼくは、このようなことを二度としてはいけないと思いました。

その後、被爆体験者の講話を聞きました。

その講話でも戦争や原爆がおそろしいということを感じ、被爆体験者の方も、二度と戦争を起こしてはならないと、今の人達に訴えていかないといけないとおっしゃっていました。

その日の夜のミーティングで班ごとに、自分で折ってきた50羽のつるをつなげました。平和を願って、みんなでメッセージを考えて書きました。

2日目はまず、広島平和記念公園・原爆ドーム・爆心地等をまわりました。爆心地の病院は戦争があった時代からあり、被害にあつて再建されたそうです。その後、班ごとに慰霊碑に花をささげ、手をあわせて平和を祈りました。

最後に、原爆の子の像に折りづるをささげました。班ごとに、祈りながらささげました。

そこには、数えきれないほどのつるがささげられていて、ぼくはおどろきました。こんなにたくさんの人が、平和を願っていて二度と戦争を起こしてはいけないということを思っていると分かりました。

昼には、自分達で作った、広島風お好み焼きを食べました。この体験では班が変わったので、新しい人とのきずなが深まったと思います。広島風お好み焼きを作るのは難しかったけれど、おいしくできたので良かったと思います。

今回広島に行って、本当にたくさんの方のことを学べたと思います。資料館でも原爆のおそろしさなどが分かり、「戦争は二度と起こさずに平和を願う」ということを伝えていきたいと思いました。



広島での体験



東城陽中学校 1年

中井陽音

ぼくは、小学6年生のとき、学校の図書室で「はだしのゲン」全10巻を読んでいたのですが、少しだけ、戦争の恐ろしさを知って広島へ行きました。その広島で、特に心に残った場所などを紹介します。

一つ目は、平和記念資料館です。ここでは主に原爆の恐ろしさや、その時巻きこまれた物などが展示してあり、いかにすごいことであつたかが、この資料館で分かりました。

黒こげになつた三輪車や、爆風で吹き飛ばされた瓦、黒い雨があつた壁などがありました。中でも印象に残つたのは、被爆者の方の話です。原爆で家族を亡くしてしまつたという話を聞いて、本当に辛いことだつたんだなと感じました。そして被爆者の方も、この話をするのは辛いだろうなと思ひました。それでも話してくれるのは、とてもありがたいことなので、しつかり聞きました。

2つ目は、旅館でのことです。同じ学校で仲の良い人が一人しかいなかったもので少し不安でしたが、同じ部屋の人ともすぐ仲良くなれて楽しくできました。ご飯もすごく豪華でおもしろかったです。

3つ目は平和記念公園の中の像や建物です。

原爆死没者慰霊碑は平和記念公園の中心部にありました。

二十七万五千二百三十人の方々がここに眠っていると知つてびっくりしました。ここでこんなに多くの人が死んでしまつていたことを考えると、心が痛くなりました。

原爆の子の像では、みんなで作つた折り鶴を供えました。佐々木禎子さんの話は事前に聞いていたので、この像が禎子さんをモデルにして作つていることも知っていました。たくさんさんの千羽鶴があつたので、すごくきれいでした。

そしてやつぱり一番すごかつたのは、原爆ドームです。何といつてもすごかつたのが、爆心地からあまりはなれていないのに、きれいに形がほぼ残つていたことです。所々に崩れた岩などが落ちていました。骨組みはほぼ完全に残つていました。何回か補強工事をしてる事は知つていましたが、ここまで残つているのは本当にすごいと思つたし、同時に原爆の威力は恐ろしいものなんだということも感じる事が出来ました。

広島に行つたおかげで原爆の悲惨さが身にしみて分かり、それと同時に七十年かけてここまで復興してきた町を、これからも守り続けるには、平和であることが大切なんだと思ひました。そしてこの事を、ぼくたちも次の世代に伝えていかなければいけないと思ひます。



広島を訪ねて



東城陽中学校 1年

澤田直寿

ぼくは、戦争を知らない時代に生まれました。お父さんお母さんも戦争を知りません。

ぼくは、お母さんが中学校の修学旅行で広島を訪れて戦争のおそろしさを体験して来た話を聞いて、ぼくも「戦争のことをもっと知りたい」と思って参加しました。

まず広島に着いて印象に残ったのは、広島町がとてもきれいに整備されていて、本当に戦争があつて焼け野原にされたのかという事でした。しかし、平和記念資料館に行つて本当につくりしました。黒こげになつた弁当箱や、焼けこげた女子学生の夏服や、伸ちゃんの三輪車などがあつたからです。ぼくは、「すごく悲惨だつたんだろうなあ」と感じました。また、放射線をあびた人が次々に死んでいったことを知つて、改めて原爆のおそろしさを感じました。そして、被爆者の方の話聞いて、原爆でしたやけどがいたかつたと聞いた時は、とても寒気がして鳥肌が立ちました。夜には、その日の感想などを言つたり、作つてきた折りづるを束ねてひもに願い事を書きました。

翌日、原爆死没者慰霊碑に行き、花をささげました。それから、原爆の子の像に行き、折りづるをささげました。そして、原爆ドームに行きました。どれだけ原子爆弾は、すごい

威力だつたのか思い知らされました。

ぼくは広島派遣団に参加させていただいて本当によかつたと思ひました。命の大切さや平和の大切さを知る事ができました。戦争は決してしてはいけないと思ひます。地球上から核兵器や原子爆弾がなくなる事を祈ります。そのためには、この先ずつと広島であつたでき事を語り伝えていかなければならないと強く感じました。もつと戦争の事を勉強していこうと思ひます。世界中の人々が、平和な国で暮らせるように、僕は願つていひます。



広島派遣団に参加して



東城陽中学校 1年

今村 莉 風

私は、広島にこれまで2回行ったことがありませんでした。その2回では、広島のを表面的に見ることしかできませんでした。唯一できたことは原爆ドームを見ることができたのでこの広島派遣団に参加して、広島で何が起こったのか、どれだけ大きな犠牲があったのかを詳しく学びたくて参加しました。

当日、資料館を冷静に見て回れるか、初めて会う人と仲良く2日間過ごせるか、とても緊張していました。そんな中、広島について、窓から広島のを見て、原爆が落ちたと思えないほど美しく、近代的でおどろきました。以前行った時、見たはずの同じ景色も今回は違って見えました。

資料館では、冷静に見学することができ、1番に心に残っているのは、変形したビン、表面が溶けた瓦です。日常では見ることのない光景に、とても恐怖を感じました。それを見て、原爆は言葉にならないほど恐ろしく、あつてはならない物だと分かりました。

実際、被爆された方の話を聞いて、その時具体的にどのような状況だったのか、資料館では知ることのできなかつたことも知ることができました。中には耳をふさぎなくなるような話もありました。その状況の中で、人を助けながら生き抜

かれたことにとっても感動しました。思い出したくもない話だと思ふのに、私たちに真剣に話してくださいましたことを考えると、私は、このまま平和を守らないといけないと思つたし、自分で伝えられることは、色々な人に伝えたいと思つた。

原爆の子の像に行つた時、たくさん折鶴を見て、その折鶴分の平和の祈りや願いがこめられている気がしました。私も絶対平和を守りますとちかつて折鶴をささげました。

私は、原爆死没者慰霊碑に花をささげる時、亡くなった方々は、なにも悪いことをしていないのに、どうしてこんなにもたくさんの方々の命が奪われないといけないのかと思つていました。だから私は平和が当たり前になつてしまつていくけれど、平和はどれだけ偉大なことなのかを改めて感じることができました。



命の大切さ



南城陽中学校 1年

森川 琴 未

私の広島印象は、すごくこわいのかなと思っていました。でも広島につくとそんなことはどこにもなくて、町は笑顔の観光客であふれていました。

資料館に見学に行きました。そこに足をふみいれると、自然とその情景が頭にうかびました。たくさんさんの展示品があつて、どれも戦争のおそろしさを感じられました。その中で私が1番印象に残ったのは、ケロイドだらけの人の模型でした。その模型はいかにも残酷で、こんな人が町にたくさんいたら考えると、もう見ていることもできないだろうなと思いました。その日の夜は、みんなで楽しく交流をしました。そこで私は、

「今こんな風に笑えていてよかったな。」
と思いました。

2日目は、平和記念公園を見学しました。座って、原爆の情報や音声で聞きながら、原爆当時の写真を見ていました。私はその場所につれていかれた気がしました。考えるだけでもおそろしいのに、その場にいたらと思うと涙が出そうになりました。私はもっともつと強い意志ができました。それは、「こんなことはもう2度とおこしてはいけない。」
ということなのです。



でもそこで、原爆ドームが残っていることが本当にキセキなんだなと思いました。この原爆ドームは、私達に原爆の辛さ、悲惨さを伝えるために残されてきたのだと思います。だからこれからは、この今で学んだ物を、私達が伝えていけたらいいなと思います。私は広島に行けてよかったと思いました。

次はもう1つ原爆の落ちた所、長崎に行つて、またいろいろな事を学んで、またたくさんの人に知ってもらえたらうれしいです。これから、広島派遣団にたくさんの人に参加してほしいし、今こうやって笑っていられることが、どれだけ幸せかうれしいことかということもみんなにわかってもらいたいです。

広島派遣団に参加して



南城陽中学校 1年

増田 愛果

私が広島派遣団に参加したのは、友達にさそわれて行ってみたいなと思ったからです。でも、私は広島に原爆が落とされたことは、とてもこわいことだと思っていましたが、そんなにこわい物だと思いませんでした。

最初に私たちが見学した場所は、平和記念資料館です。

そこには、八時十五分で止まった時計や、灰皿や、やかんなどが、ぐにやぐにやになっていました。他にも、黒こげになったお弁当や口ウ人形やぼろぼろに破れている服などもありました。それに、かいちゆう時計は血でまっていました。

次は、音声ガイドで見学しました。

そこには、ふるびたヘルメットや三輪車などがありました。私が一番印象に残ったのは、その日原爆が落とされた時の様子を、再現した物です。

それは、地面がレンガや大きい石などでうめつくされており、空は赤く染まっていて、人々は服がぼろぼろになり皮膚などが垂れ下がっていました。

その後、旅館に行き夜ごはんを食べて、ミーティングをしました。ミーティングは、一日の感想とつるを束ねて白いボードに、

「これからも平和でいられますように」と書きました。

そして夜は、おかしを食べながらみんなで楽しく話してすごすことは、とっても幸せであることが、あらためてありがたいなと思いました。

二日目は、広島平和記念公園に行つて花をささげて写真を撮りました。

その後、私たちが折つたつるを原爆の子の像にささげました。

そして、原爆ドームへ行きました。

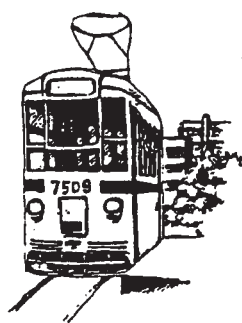
すごく大きくて、けっこう残っていたのすごいなと思いました。

次は、爆心地は病院だったので、私はとてもびっくりしました。

私は広島派遣団に参加して、いろいろな事が学べてよかったです。

そして、戦争はけつして行つてはいけない事だと思います。

これからも、平和で幸せだと人々が思えるような国を続けていってほしいです。



広島に行つて…



南城陽中学校 1年

有村 咲 姫

私は、初め広島はこわいと思つていました。そして、広島に着くと私が想像していたものと逆で、とてもきれいな風景が見えました。そんな風景を見てみると、原爆がおちたなんて、想像もつきませんでした。

バスの中では、バスガイドさんが、はだしのゲンと、さだ子ちゃんの話をしてくれました。そのお話の中では、昔の原爆の苦しさを、悲しさが、深く描かれていて、本当にくわしく伝わりました。

そして、資料館に行くと、人形、ハガキ、帽子の羽、本などが置いてありました。ここでは、外国人が真剣に、資料を見ていて、どのように思つて見ているのかな？と思ひました。たぶん私が思うには、

「戦争はおそろしいものだな。」と思つているように、見えました。やっぱりどの国でも、思う事だろうな…と感じました。そして、本物の写真があり、水をもとめ、たくさんの人が、流されて行つている物があり、現在原爆にそうぐうして生きている人は、本当に奇跡なんだなと思ひました。

そして、次の日、そのみなさんが流された川と、原爆ドームを見に行きました。そこには、たくさんさんの被爆者の気持ちがこもっているような気がしました。とても深く、悲しみや、

苦しみ、つらさ、などが伝わりました。あらためて、原爆ドームはかるく考えては、いけないんだなと思ひました。原爆ドームの裏に川があり、資料館で見た物のように、広く大きい川で、ここに水をもとめ、皆が亡くなつていつたんだなと思うと、とても複雑な気持ちになりました。なぜなら、つめたい水をもとめで行つているのに、逆にそこに、原爆が入つている事も知らずに、飛びこんで亡くなる人もいるし、反対に水に入らずにそのまま亡くなつていく人もいますので、今原爆を受けて、生きていらつしゃる方々は、家族や友人や、色々な人に助けられて生きていらつしゃるんだと思うと、やっぱり、家族や友人などが、あたりまえにいるという事は、本当に幸せなんだな…と思ひました。

この、広島派遣団に参加して良かったと思ひます。これからも、この経験をむだにせず、周りにいる人や、ほかの人にも、知つてもらつて、原爆の苦しみを、伝えていきたいです。



広島に行つて思つたこと



南城陽中学校 1年

谷村 浩人

ぼくが広島に行つて思つたことは、原爆は人にも心にも悪いということですよ。

1日目の平和記念資料館に行つて、多くの展示品を見ました。そこには、形をなくしたかわらやビンなど、たくさんありました。それを見てぼくは、原爆の威力は、こんなにもひどかつたんだと思いました。ぼくが一番びっくりしたのは、人が座つたままのあとをした銀行の石と、壁にささつたままのガラスでした。それを見て、ぼくはぞつとしました。

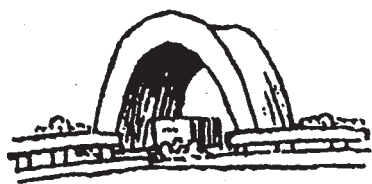
その後、被爆した人の話をききました。想像するだけでもおそろしい話でした。被爆した人は、その時は寝ていたそうです。その人は寝ている時に被爆しました。その後、外にでると、まさにこの世の地獄だつたそうです。人は、ひふがとけて、たれさがり、体じゅうにガラスがささつていました。ぼくは、それを聞いただけで心がすごく痛みました。

その後は、旅館に着きました。旅館では、他校の人と交流して、仲を深めました。寝る時は、みんな集まつて寝ました。でも寝るまえに部屋長が、いきなり「枕なげやろう」って言うて、いきなりあばれたのでびっくりしました。

二日目は原爆ドームに行きました。はじめは、爆心地に行きました。そこは病院でした。そのすぐ近くに原爆ドーム

がありました。あんなにも近いのに、きれいに残っていません。ぼくはそれにびっくりしました。それで広島派遣団はおわかりました。ぼくはこの体験を、多くの人に伝えていきたいと思ひました。広島焼きはすごく上手にできたのでうれしかったです。最後に原爆がおよぼす悲劇は、もう二度とくりかえしてはいけない、そして戦争は絶対してはいけない。戦争をすると、大切な人が亡くなつたりして、すごくかなしくなるので、戦争は絶対にしてはいけないと社会に伝えていきたいです。

ぼくは、この広島派遣団になつて、いい体験や原爆の悲惨さを知ることができて、この企画はすごくいいと思ひました。



広島派遣団に参加して



北城陽中学校 2年

藏貫郁大

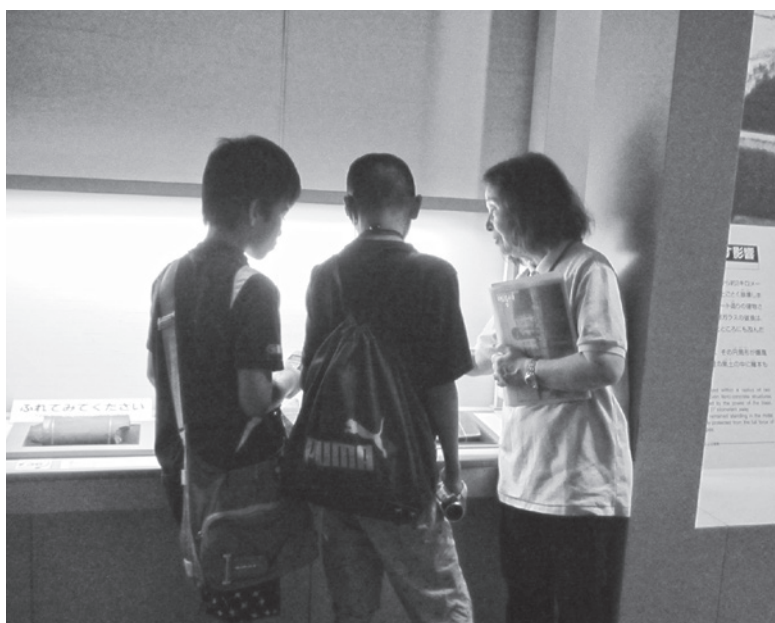
ぼくは、今回広島派遣団に参加しました。なぜ今回の広島派遣団に参加したかと言うと、「はだしのゲン」や様々な戦争についての本やマンガを見てきたからです。なので、原爆について少しは知っていたのですが、やはり、写真や映像で見るとは違い、想像以上に恐ろしいものでした。8時15分にB29から落とされた原子爆弾によって広島市内の爆心地半径2km以内の建物は、全てなくなり、そのわずか数秒間の間に約十四万人、当時の広島の人口の約5分の2が亡くなっていったのです。そして、その当時の被爆した方のさまざまな遺品が平和記念資料館にありました。「8時15分」で止まっている時計、「三輪車」、爆風と熱でとけ変形している「ビン」、とけている「かわら」などがありました。そして資料館で最も衝撃的だったのが、被爆した人たちを再現したろう人形です。最初に見たときは、すごい衝撃をうけました。ガラスが体にささり、服がボロボロになり、皮膚がたれさがっていました。これを見た瞬間あまりにも残酷だと思いました。次に、被爆者の話を聞き、貴重な話を聞くことができました。

次に自分達が泊まらせていただく旅館に行きました。

2日目は、まず平和記念公園に行き、慰霊碑に花を捧げま

した。そして次に千羽づるを捧げました。そして原爆ドームに行き、おどろきました。レンガはくずれ、骨組がむき出しになっており、原爆のこわさがわかりました。

そして、この2日間で原爆のことを学べてよかったです。この学んだことを今後友達や家族にも、城陽市の代表として伝えてゆかなければならないのだと思いました。



戦争について考える大切さ



南城陽中学校 2年

川端優花

八月六日。この言葉を聞いても以前の私なら何も思わなかったでしょう。しかし今は違います。そう、七十年前広島で実際に起こった悲惨な出来事。原子爆弾が落とされ数多くの罪なき命が奪われた日です。この作文を読んだ人にとって「知りたい」と思うきっかけになれば嬉しいです。

今回派遣団に参加しようと思ったのは、特に深い考えはありませんでした。しかし、帰ってくる時には胸に熱い何かを感じられました。それは平和な今があるという幸せであり、かつての過ち、そう戦争を知ったつらさ、または平和な未来を作っていく決意もあつたでしょうか。昔の人々はどんな思いで毎日を過ごしていたのでしょうか。今、私達が最低限あたりまえだと思つていたのでしょうか。たとえば満足な食事や十分な睡眠など。できて普通であつて、できなかった経験などほとんどないであろう事です。しかし昔の日本ではどれもあたりまえではありませんでした。空襲のせいで夜も安心して眠ることなどできなかったでしょう。そして八月六日。原子爆弾が投下されて今なお続く苦しみ。戦争の負の連鎖は終わることはないのです。戦争は、まだ終わっていません。体験した人々の体に害を及ぼし精神に苦痛を植え付けます。今この瞬間もです。また、第二次世界大戦は終わりましたが、

今も戦争は世界で起こっているのです。そのせいで私達と歳の変わらない、幼い幾つもの尊い命は失われ続けているのです。

では、私達にできることは、例えばどんなことがあるのでしょうか。平和な未来を作るためには。

私は、どんな小さなことでもいいと思います。自分で調べてみたり、周りに話してみたり、そんな小さなことも全つながらと思います。大切なのは、実践していくことです。だから私も小さな事から始めて、平和への道を切り開いていきたいと思えます。原爆投下、戦争という過去の大きな過ちを絶対にくり返さないために自分達で平和の輪を広げていきたいのです。みんなが笑顔でいられるように。



広島に行つて



南城陽中学校 2年

川津 真優

私が広島派遣団に参加した理由は、友達にさそわれたのと、父の単身赴任で何回か広島に行つていて、原爆ドームにも何回か行つたりして、もう一回広島に行きたいなと思つたからです。

一日目は、朝はやく市役所に集合して、バスに乗りました。バスの中では、バスガイドさんから、原爆ドーム、はだしのゲン、さだこちゃんの話聞きました。バスガイドさんが話してくれた中で一番心にこつたのは、はだしのゲンです。この話は実際に、あつた話だということを知りました。広島に着き、お昼を食べてから、資料館に行きました。一回行ったことがあつたけど、もう一回みても、胸が痛くなるものばかりでした。でも音声ガイドを聞くのは初めてだったので、詳しく知れました。心に一番のこつたのは、被爆した人間の模型です。ひふがただれていて、うでを前に出して、夢にも出てきそうなくらい怖かったです。70年前の広島がこんな地獄のようだったとは、信じられないぐらいでした。この後、被爆された方の話を聞きました。体験した方の話だったのでリアルに伝わってきました。その後、旅館に行つて、お風呂に入つて、夜ご飯を食べてミーティングをしました。二日目は、平和記念公園に行つて、花をささげました。いっ

ぱい花がささげてありました。その次、広島二中の慰霊碑に行きました。慰霊碑のうしろには、全員の名前が書いてあつて、心にぐつとききました。そのあと原爆ドームに行きました。すごく小さくて、もとの建物と全然ちがうかったです。そのあと、原爆の子の像に折りづるをささげました。たくさん折りづるがささげてありました。

被爆都市である広島の小學生に、「何日の何時に原爆がおちた？」つて聞くと、半分以上の人は答えられないそうです。これを聞いて、びっくりしました。もつともつと戦争のことを知つて、伝えていかなくては、いけないのではないかと思ひました。私は8月6日のサイレンも聞いたことがあります。京都でみてるのと全然感じがちがいます。広島派遣団に参加できて良かったです。



平和について



南城陽中学校 2年

阪口 優羽

私は、広島に行つて、さまざまなことを学びました。

一つ目は、原爆についてのことです。なぜかと言うと、原爆のことをあまり知らなかったときは、ちよつと爆発しただけだろうと思つてましたが、実際に見ると、すごすぎて、言葉がでませんでした。そして、ものすごい人数の人々が亡くなつていて、びっくりしました。皮がべろんべろんにめくれたり、大やけどをした人がいたり、中の骨が見えるぐらい、えぐられてたりなど、痛いじゃすまなくらいの大けがでした。この作文を書いたのは、ちよつと原爆が起こつた日、テレビでも見ました。いつ見てもおそろしくて、今のことを思うと、私たちは今、すごい幸せなんだなと思ひました。亡くなった人たちは、今でも安らかに眠っているのでしょうか。これからも、どうか私たちを見守つてくれていたらうれしいです。

二つ目は、平和についてのことです。なぜかと言うと、昔は、戦争とか、食料不足とかで生きることにくすぐ大変でしたが、今では、病気、交通事故、海でおぼれるなど、よつぽどなことがなければ、生きていけます。昔の人たちは、どんなに大変だったのだろうか。

私のひいおじいちゃんは、戦争で亡くなりました。ひいお

ばあちゃんは、必死に子どもを女手一つで育ててきたみたいです。お米とかも全然なくて、困つてたけど、自分の乳のミルクを必死にだして、何とか子どもを無事立派に育てることができたみたいです。今では、食料がたくさんあるので、本当に私たちは今、すごく幸せにすごせていると思います。昔、まずしい暮らしをしていた人たちに、今の平和な時代の生活をさせてあげたいです。もしかしたら、原爆で亡くなった人が、生まれかわつて今幸せに暮らしているのかもしれないね。

私は、広島に行つて、本当にいい体験をしたと思います。後悔などいつさいしてないです。これからも、戦争がない、平和で素晴らしい幸せな毎日をすごせたらいいなと思います。



戦争のその後を知って



奈良教育大学附属中学校 3年

松井海陸

僕が広島に行ったのは、これが初めてではありません。しかし、被爆者の話を初めて聞いてみると、経験した人しか話せないような貴重な内容を聞くことができました。

まず、話を聞いて被爆者一人一人に「思い」があるということ、はつきりと体感しました。なぜなら、平和記念資料館の展示を見ても分からないようなイメージや心情などの「思い」がよく伝わったからです。

つぎに、教育によって正義は変わってしまうと感じました。なぜなら話によると、今でいう正義は昔は悪で、戦争を拒むことは悪徳で失礼だったと言っています。

さらに、被爆者はとても死が近くにあり、死をおそれていたことが分かりました。それを聞いて、人が死ぬことは周囲にも大きな影響を与えて、のちの人生までも巻き添えにするということも分かり、なぜ戦争をこうまでして拒むかも少しわかった気がしました。

次に、原爆ドームを見ました。原爆ドームはとてもポロポロで今にも崩れ去りそうな状態でした。しかし、よく見ると補強をされていることも分かりました。そこから原爆ドームをちゃんと残して、あとの世代にも戦争の悲惨さ、悲しさを残そうという被爆者の戦いを見ているようでした。さらに、

のちに調べてみると、残そうとする人々と、早くなくそうとする人々とで、長い議論が行われたことも分かりました。それを知ってから写真を見ると、昔の人にとっても感謝しました。その後、原爆の子、禎子像を見ました。その像の裏にはとてもたくさんのお供えがあり、昔の人々の戦争の記録を残す戦いは、とてもよい結果を残したことが分かりました。広島での旅をふり返ると、この旅は本当の平和とは何なのかという答えを探すための旅だったのではないかと考えています。なので、この旅につれていってもらって、本当の平和に近づくことができ、とてもありがたいと思っています。どうもありがとうございます。



編集・発行 城陽市 企画管理部 秘書広報課

〒610-0195 京都府城陽市寺田東ノ口16・17

電 話 0774-56-4050

FAX 0774-52-1175

U R L <http://www.city.joyo.kyoto.jp/>

E-mail heiwa@city.joyo.lg.jp



再生紙を使用しています。